

韓国ウェルネス産業におけるセラピー産業、エステティックの役割とその意義 ー韓国治癒協会、A 大学および B サロンの調査を通してー

今野 牧 新井 卓二

【キーワード】 韓国ウェルネス産業、セラピー産業、エステティック、健康、美容

1. はじめに

近年、ウェルネス産業は世界的に急速な成長を遂げており、心身の健康を総合的に支援する新たなサービスが多様化している。その中でも、セラピー産業およびエステティックは、身体的ケアのみならず、心理的リラクゼーションやストレス緩和を目的とした重要な役割を担っている。特に韓国では、K-Beauty の国際的認知度の高まりとともに、ウェルネスツーリズムやメディカルスパなど、健康と美容を融合した産業領域が注目を集めている。

韓国は美容大国として知られているが、その発展の背景には医療、美容、観光、文化など多様な分野が密接に関連しており、特にセラピーとエステティックは、人々の生活の質（QOL）向上に寄与する新しい価値創出の核となっている。同国では、美容と健康を一体化させたビジネスモデルの構築が進みつつあり、エステティックの領域も治療的要素やメンタルケアを含む包括的サービスへと拡大している。

これまでの先行研究において、韓国の美容・エステティックに関する議論は多数存在するものの、「ウェルネス」や「セラピー産業」との関係性に焦点を当てた研究は限られている。特に、産業構造・政策的支援・教育体系などの観点から体系的に分析した研究は少ない。

そこで本研究は、韓国ウェルネス産業におけるセラピー産業およびエステティックの位置づけと社会的、経済的意義を明らかにすることを目的とする。

2. 研究の背景と先行研究

ウェルネス産業は現在世界的に急速に広がっているが、ウェルネスの概念は紀元前 3000 年～1500 年からあると Global Wellness Institute（以下、「GWI」という）では述べている¹⁾。21 世紀になり、慢性疾患と肥満の危機が世界中で猛威を振るい、医療費が持続不可能な水準にまで高騰する中、従来の医療機関や多くの政府が予防と健康増進に重点を移しはじめ、世界のウェルネス経済は 2015 年の 3.7 兆ドル市場から 2017 年には 4.2 兆ドルに成長し、世界経済の成長率（年間 3.6%）のほぼ 2 倍に達した。GWI は 2023 年のウェルネス経済の市場規模を 6.3 兆ドルと報告した。そして 21 世紀、世界的なウェルネス運動と市場は劇的な転換点を迎え、フィットネス、ダイエット、健康的な生活、そしてウェルビーイングに関するコンセプトやサービスが爆発的に増加し、ウェルネスの概念は食品・飲料から旅行まで、あらゆる業界を変革している。こうした動向は、従来の医療・美容サービスの枠を超えた、新たな「予防・癒し・文化」の融合産業として注目されている。GWI 調査によると、ウェルネス産業の世界市場ランキングでは、1 位にアメリカ、次いで中国、ドイツ、日本、イギリス、フランス、インド、カナダ、イタリア、オーストラリア、韓国が TOP10 に入っている。今回調査対象の韓国は、アジアでは中国、日本

に次いでウェルネス産業が盛んに行われている。GWI ではウェルネスの根本の考え方として、第一に、ウェルネスは受動的または静的な状態ではなく、むしろ、健康と幸福の最適な状態を目指して努力する意図、選択、行動に関連する「積極的な追求」であるとしている。第二に、ウェルネスは全体的な健康と関連しており、身体的な健康を超えて、調和して機能すべき多くの異なる側面を組み込んでいると定義している。

欧米諸国では、ウェルネス産業がすでに成熟段階にあり、企業の従業員向けウェルネスプログラムや地域の健康政策と連携した形で発展している。対してアジアでは、文化的背景を活かした独自のウェルネスモデルが形成されつつあり、日本の温泉文化、韓国のヒーリング観光、タイのスパ文化などが国際的ブランドとして確立している。特に韓国では、政府主導によるウェルネス観光の推進政策が展開され、地域資源を活用した体験型プログラムの整備が進められている。

ウェルネス産業の構成要素は、GWI の分類によると、「パーソナルケア・美容」「健康的な食・栄養」「フィットネス・マインドフルネス」「ウェルネスツーリズム」「スパ」「職場のウェルネス」など 11 の主要分野から構成される。その中でエステティックおよびセラピー産業は、「パーソナルケア・美容」「スパ」「ウェルネスツーリズム」に深く関連しており、身体的・心理的回復を促すサービスとして位置づけられる。特に近年は、テクノロジーと科学的根拠（エビデンス）に基づいた新たな市場領域が形成されている。こうした潮流の中で、韓国のエステティックおよびセラピー産業は、美容技術の高さと文化的価値を融合し、国際市場における競争力を高めている。

2-1. 韓国におけるセラピー産業とエステティックの現状

韓国のセラピー産業は、アロマセラピー、リフレクソロジー、リンパドレナージュ、ボディケアなど、多様な分野で発展している。これらは「ヒーリング産業（Healing Industry）」の一環として認識され、医療・心理・文化の融合領域として位置づけられている点に特徴がある。韓国国内では、セラピー関連の民間資格制度が整備され、教育機関や専門学校において理論と実技を融合したカリキュラムが導入されている²⁾。

2-2. 韓国のメディカルツーリズムとウェルネス戦略

韓国のセラピー産業はメディカルツーリズムとも密接に関連しており、外国人観光客を対象としたスパ・ヒーリング施設の増加が著しい。特にソウルや済州島などでは、韓国独自のウェルネスブランドとして国際的にも注目されている。これらは「治療」と「癒し」を融合した新しいサービスモデルを提示しており、韓国のセラピー産業の国際的差別化要素となっている。2025 年 11 月には、ソウル市が初となる「ビューティー&ウェルネス・ツーリズム」の厳選リストを発表した。これは、休息・リフレッシュ・リジュベネーション（Rest, Refreshment, Rejuvenation）の観点から、ソウルが誇る最高の魅力を体験できる 100 のスポットを掲載したものである。「健康で美しいソウルの日常」という同市のビジョンを体現しており、都市型ウェルネス観光の主要な世界的拠点としての地位を確立することを目指す取り組みとなっている³⁾。

2-3. 韓国における制度的支援と人材育成

韓国のエステティックは、美容整形、スキンケア、スパ産業と連携しながら発展してきた。

K-Beauty の世界的ブームにより、化粧品やスキンケア関連産業は輸出産業として拡大し、国家経済に大きく貢献している。エステティックに関しては、女性のみならず男性や外国人観光客にも支持を得ており、美容文化のグローバル化を象徴する存在となっている。人材育成の面では、国家レベルでエステティック関連教育の体系化が進められている。韓国では原則として皮膚管理士という国家資格を有しなければエステティックサービスを提供することはできない。この制度により、教育と産業が制度的に接続され、国際競争力を持つ人材育成の基盤が構築されている⁴⁾。

また、日本では難しいとされているメディカルエステも数多く存在し、例として、アルムダウンナラ皮膚科・形成外科⁵⁾は、エステティックとともにビューティに関わる医療サービスが受けられる。日本のような一般のエステティックサロンで皮膚管理を行うのではなく、医師の診断・処方のもとでエステティックサービスが提供される点に特徴がある。

さらに、このような医療連携を前提としたエステティックは、美容目的にとどまらず、治療過程にある患者の QOL 向上を目的とした分野へも展開している。その代表例として、がん患者を対象にしたオンコロジーエステティックの発展が挙げられる。

2-4. 高齢化社会への対応としての韓国ウェルネス政策

韓国がエステティックに加えてウェルネス産業に力を入れている背景には、高齢化と経済人口減少の問題がある。韓国の統計庁によると、15 歳から 64 歳の経済人口の割合が 2020 年 72.1% なのに対し、2070 年には 46.1% に下がると予測されている⁶⁾。こうした人口構造の変化は、医療費の増大や国内経済の縮小を招く深刻な課題となっている。そこで韓国政府は、国民の健康寿命延伸による社会コストの抑制と、観光資源としての高付加価値化による経済活性化を目指し、ウェルネス・ヒーリング産業に力を入れ、韓国治癒協会⁸⁾が主体となって様々なウェルネス施策をしている。韓国の治癒産業政策は、韓国政府の山林庁、海洋水産部、農業振興庁、文化体育観光部が担当している。文化体育観光部では、ヘルスツーリズムに関する事業に力を入れており、2023 年 5 月に、癒し観光産業育成に関する法律の発議をおこなっている。そこで、観光公社全国 77 か所の優秀ウェルネス観光地を指定し、その中の 18 か所がビューティ、SPA であった⁷⁾。

2-5. マッサージのリラクゼーション効果とエステティックのセラピー産業への適合性

マッサージやエステティックの定義・資格制度は国によって異なり、エステティックがセラピー産業の中でどのように位置づけられるかについては、学術的検討が十分ではない。一方で先行研究では、ハンドマッサージが気分状態の改善に寄与するなど、そのリラクゼーション効果が明らかにされており、エステティックがウェルネス領域と高い親和性を持つことが示唆される。

その医学的法的な背景として、マッサージセラピーに関連する文献、身体療法の生理学とボディワーク（ダニエル・マートン、高橋結子 2021⁸⁾）では、フィジオセラピーは薬や手術を用いず、マッサージや温熱・電気刺激などの物理的手段によって障害の改善を図る治療と定義されており、日本における実施者は理学療法士である。理学療法士は理学療法士法⁹⁾のもと、医療従事者としてマッサージなどを行っている。韓国でも同様に、物理療法士のみが治療目的のマッサージを行えると医療法で定められている¹⁰⁾。医療目的のマッサージとリラクゼ

ーション目的のマッサージは異なるが、いずれもリラックス効果が先行研究で確認されている。特にハンドマッサージでは、怒り・緊張・疲労の軽減や気分改善が有意に認められている¹¹⁾。これらの知見から、セラピー産業にエステティックを取り入れることは妥当であると考えられる。

つまり、マッサージのリラクゼーション効果から、セラピー産業でエステティックを取り入れることは理にかなっていると推察される。

3. 研究目的と方法

前述のようにセラピーの多様性については先行研究や学術的論文がある中で、日本の先行研究では病気の治療や症状の緩和を目的としていて、医療行為の一つとしてメディカル・アロマセラピーについての臨床試験が行われている。医療行為でのセラピーでも、質の高い臨床試験が少ない¹²⁾。このように明確な先行研究が少ない理由は、「セラピー」や「エステティック」などの領域において、効果を数値化することが難しいためであると推察される。明確なセラピーとエステティックの検証結果が少ない中でも積極的にセラピー産業にエステティックを組み込んでいる韓国を調査してみると、韓国治癒協会では、自然資源や地域資源を活用した多様なセラピー産業が展開されている。具体的には、治癒農業施設を使った心理・社会・身体面の回復を目的とする農業セラピー、森林休養法に基づき免疫力向上を図る森林セラピー、海洋資源を活用した海洋セラピー、地域観光と癒しを組み合わせた観光セラピーが挙げられる。加えて、フィジカルセラピー、ヨガセラピー、そしてエステティックもセラピー産業の一環として取り組まれている。

本研究は、前述の韓国の多様なセラピー産業の具体的な取り組みから、韓国ウェルネス産業におけるセラピー産業およびエステティックの位置づけと社会的、経済的意義を明らかにすることを目的とする。

4. 訪問等調査

4-1. 調査の手続き

2025年3月12日より、韓国治癒協会、A大学、そしてがん患者の方へエステティックを提供するオンコロジーエステティックBサロンを訪問調査した。A大学は物理治療士（日本では理学療法士に相当）養成課程を有し、資格取得後にグラストンマッサージ、テーピング、安全歩行指導など、健康増進を担う指導者育成に注力している。さらに、世界的なエステティック資格であるシデスコ(CIDESCO)国際資格取得課程もあり、エステティックをセラピーの一部として位置づけているため、体験を含む聞き取り調査を実施した。

Bサロンは、治療後のがん経験者に対し、闘病による心身のストレス緩和を目的にオンコロジーエステティックを提供している。韓国では同分野が盛んである一方、日本には資格制度が存在しないため、提供実態を把握する目的で訪問した。

4-2. 調査結果

【韓国治癒協会】

＜取り組み体制＞

韓国治癒協会は、セラピーやエステティックを通じて人を「治癒する」ことを基本理念とし、ウェルネス観光アカデミー、癒し農業プログラム、抗老化バイオ体験館、海洋ヒーリング、人材養成、ウォーキングトレイルプログラムなど、多様な治癒活動を展開している。2021年発足と新しい団体であるが、セラピーの科学的効果検証を重視し、韓国政府と治癒産業推進において連携している。

韓国では自然資源を活用した治癒産業を制度的に支えるため、各省庁が関連法を整備してきた。山林庁は2006年「休養に関する法律」、2015年「森林福祉振興法」により森林セラピーを推進、海洋水産部は2020年「海洋治癒資源の管理及び活用に関する法律」を制定し海洋セラピーを制度化した。農業振興庁は同じく2020年に「治癒農業研究開発及び育成法」を制定し農業セラピーを育成している。そして、2025年3月20日にウェルネス観光産業の積極的な育成と振興を目指すとして「治癒観光産業育成による法律」が、国会本会議を通過した。

韓国治癒協会は、ウェルビーイング向上を目的とした多様なセラピー関連資格も付与している。その中には韓国の各省庁が所管する登録民間資格も含まれ、文化体育観光部が主管するものとしては、ブレーンヨガ指導士、フィジオピラティス指導士、スリング運動指導士、水中運動指導士、自己回復指導士、瞑想ヒーリストなどがある。環境省主管の「アロマ指導士」、農林畜産食品部主管の「フードヒーリスト」も含まれる。政府が関与する理由について、韓国治癒協会顧問のC氏は「韓国のセラピー資格を世界に認知させるため」と述べている。

韓国治癒協会は団体標準制定が可能な組織であり、基準認証により品質向上、販路拡大、生産性向上、消費者満足度向上などが期待される。この仕組みが、前述のセラピー指導者やA大学との協働にもつながっている。韓国治癒協会が開発した「ブレーンヨガ」は、運動生理学に基づき認知機能維持を目的に考案されたもので、高齢者を中心に人気の高いプログラムである。

(図1参照)



図1 韓国治癒協会開発ブレーンヨガマット

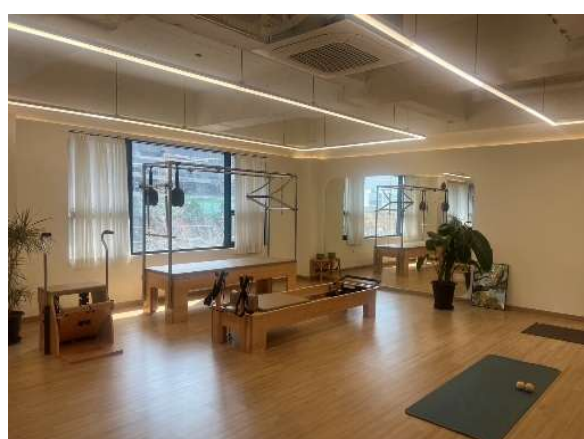


図2 リカバリーピラティスサロンの施術室

また、韓国治癒協会では2027年までに済州島をはじめ、5カ所に海洋治癒センター（海洋治癒）を現在建設中である。この施設には水中治療室、瞑想セラピー室、運動セラピー室、茶室、リハビリ室、エステティック室、健康測定室、近熱治癒実証室、美容整形施設などが入る予定である。

次に、セラピーの一環としてピラティスを軸に考案された「リカバリーセラピー」を提供する、韓国治癒協会のサロンを訪問し、体験した。（図2参照）

同サロンが提供するリカバリーセラピーの領域には、リハビリピラティス、マットピラティス、スリングピラティスがある。その中にスリング運動があり、スリング運動指導士がリハビリを必要とする患者、高齢者に向けて短時間で効率的に運動ができる技法を指導している。スリング運動とは、神経筋活性化を目的とするロープを用いて不安定な支持面環境での3次元の運動活動を通じて身体が弱くなった筋膜鎖を強化して体全体の健康を促進するものである。スリング運動士の資格は同協会では40時間の教育課程を受ければ取得することができる¹³⁾。また、持ち運びや簡易設置が可能なポータブル型の機器もあり、これらを用いたトレーニングも運動セラピーの一環として活用されている。韓国では、運動をするとホルモンが上昇し、楽しくなり気分がよくなるという概念から、運動も一種のセラピー(治癒)として捉えている。C氏によると、「実際に韓国の理学療法士養成施設では、単に理学療法士の資格だけを取得するのではなく、ピラティスの資格も取得する学生が多い。」とのことである。その理由として同氏は、「韓国では病気を治すだけではなく、リハビリ(自己回復)をしたいと思って病院に来院する人も多く、自己回復も治癒の一環であるピラティスが人気である。」と述べている。事実、実際の病院では患者が横になっている状態で、リハビリ目的でピラティスを活用している。釜山には、1階全体を物理治療室として、そこでピラティスを行っている病院もある。通常リハビリテーションはケガや病気の回復を目的として行われるが、韓国においてはピラティスが健康な人や高齢者にも人気であることが確認された。

【A 大学】

<取り組み体制>

A大学では、理学療法士の資格課程があるが、韓国での理学療法士の法律上の位置づけや対象は日本と同様となる。韓国では理学療法士が高度なスキルを持つセラピストとして広く認知されており、資格取得後の進路として、セラピー産業の分野に進出する事例も多くみられる。その一例として、グラストンマッサージがあり、実際に当該施術を受けた。（図3参照）



図3 理学療法士によるグラストンマッサージ



図4 施術用ステンレスチール

グラストンマッサージ (Graston Technique) は、医師、理学療法士、作業療法士、柔道整復師、鍼灸指圧師、あん摩マッサージ指圧師等の国家資格を有する専門職が実施可能な治療の手技である。スポーツ選手のコンディショニングやリハビリテーション領域で活用され、外傷後の機能回復や競技パフォーマンスの向上を目的として行われることが一般的である。

韓国の医療・ヘルスケア現場では、症状や障害の改善を目的とした従来の医療的利用に加え、健康状態に問題のない一般市民が「健康維持」や「パフォーマンス向上」を目的として病院や治療院を受診し、グラストンマッサージを希望するケースが多く見られる。この背景には、著名スポーツ選手やインフルエンサーが紹介する運動法・筋膜リリースなどの治療法を一般人が積極的に取り入れるという、韓国特有の健康志向と、流行を積極的に取り入れる国民性が存在している。

グラストンマッサージは、専用の6種類のステンレススチール製インストゥルメント(図4参照)を用い、筋・腱・靱帯などの軟部組織に生じた機能障害に対してアプローチする技術である。器具による組織への摩擦刺激を通じて、筋や筋膜に生じた緊張・癒着を緩和し、軟部組織の可動性改善を図る点に特徴がある。これは一般に、筋膜リリースあるいはモビライゼーションとして位置づけられる。さらに、治療後には運動連鎖を踏まえたリハビリテーションエクササイズを組み合わせることで、「コリ」や動作制限、浮腫、姿勢不良など、多様な身体症状の効率的な改善を促すとされている。

また、金属製インストゥルメントを使用することで、施術者は手指では捉えにくい深部の組織硬結や癒着をより正確に触知できる利点がある。その結果、即効性の高さが、結果の早さを求める韓国の国民性と合致し、高い人気を獲得している。こうした手技の特性と社会的要因が、グラストンマッサージの一般層への普及を後押ししていると考えられる。

さらに韓国の教育機関では、一般的な理学療法士養成課程に加えて、ストレッチ指導、テーピング技術、痛点刺激を目的としたマッサージガンの使用法など、健康増進・パフォーマンス向上に関連する実践的技術を幅広く学ぶことができる。加えて、歩行の安全性と健康増進を目的とする「ウォーキング専門家」養成プログラムも整備されている。このプログラムでは、5日間、計20時間のカリキュラムを通じて、安全歩行専門家の資格を取得することができ、その内容にはストレッチ、マッサージガン、グラストンマッサージ、運動回復学、歩行概論など、多岐にわたる実践・理論科目が含まれている。

このように、韓国ではグラストンマッサージや歩行指導を含む多様な実践的技術が、単なる医療的治療にとどまらず、健康維持、予防、ウェルネス領域においても積極的に活用されており、これらが理学療法やセラピー産業の一部として社会的に広く認知されている。

【B サロン】

<取り組み体制>

エステティックをセラピー産業の重要な領域の一つと位置づけ、がん治療を終えた方を対象に施術を行っている「オンコロジーエステティック B サロン」を視察、体験した。オンコロジーマッサージとはがん患者の方へ行うマッサージのことである。2019 年 Supportive Care in Oncology Symposium (がんサポーターブケア・シンポジウム) のニュースプランニングチームの一人、Joseph Rotella 医師 (MBA、HMDC、FAAHPM) は、「化学療法によって誘発される末梢神経障害 (CIPN) は最も苦痛で長期にわたり持続する、生活の質 (QOL) への影響が大きい

がん治療の副作用のひとつ」と述べている¹⁴⁾。オンコロジーマッサージは、こうした副作用に伴う苦痛の緩和や、治療課程における不安の軽減を目的とした「非医療的なリラクゼーション(ケア)」として行われている。韓国では、ただエステティシヤンの資格だけを所有していてもオンコロジーエステティックの資格取得をすることはできず、韓国の国家資格である看護師、准看護師、理学療法士、社会福祉士、介護福祉士、美肌国家資格を所持している者だけが、教育を受け、資格を取得できる制度となっている。がん患者のスキンケアに関する総合的な教育と同時に、身体的、精神的変化による問題点の改善を目指すため、カナダオンコロジーエステ国際資格を取得できる機関が韓国国内に13か所あり、教育課程を修了した施設には認定証が授与される¹⁵⁾。(図5参照)

今回訪問したBサロンは、オンコロジーエステティックを提供する個人サロンであり、筆者も実際に施術を体験した。なお、Bサロンは治療中のがん患者ではなく、治療を終えた人々を対象としたリラクゼーション目的のマッサージサロンであることが確認された。



図5 カナダオンコロジーエステ課程修了の「公式認証スパ」を示す看板

なお、同資格は国際的に展開されており、カナダ、アメリカ、韓国、南アフリカ共和国、イギリス、イタリアなど、世界10か国以上で教育機関が運営されている。

4-3. 考察

訪問調査を実施した韓国治癒協会、A大学およびBサロンに共通して見いだされた点として、韓国のセラピー産業がきわめて多領域にわたって展開されていることが挙げられる。これらの機関では、理学療法士が実施するグラストンマッサージのような治療の手技、リカバリーピラティス、オンコロジーエステティック、アクアセラピー、森林浴セラピー、海洋セラピーなど、多様なアプローチが実践されていた。また、それらの活動を支える指導者の多くは理学療法士を含む複数の専門資格を保有しており、多職種による専門性の高い支援体制が構築されていることが確認された。このように、韓国のセラピー産業は心身の健康維持・回復に向けて多面的に展開されているが、その中でエステティックはセラピーの構成要素として位置づけられているものの、他の領域と比較すると活動範囲は限定的であると考えられる。

韓国治癒協会の特徴としては、「治癒」という概念をセラピー効果として再解釈し、活動の基盤としている点にある。治癒は心身の回復過程全体を指す広義のセラピーとして捉えられている。また、同協会は海洋セラピー研究者との共同研究により関連化粧品を開発し、イベント参加者に配布することで、セラピーの一環として美容を位置づけ、国民への認知拡大を図っている。さらに、2027年にエステティックサロンを併設した複合スパ施設が開業予定であり、セラ

ピーの多様性がより広く社会に認知されるとともに、エステティックがセラピー産業において重要性を増すことが予見される。

A 大学の事例からは、こうしたセラピー産業を支える「高度な専門人材の育成システム」が確立されている点が特徴として確認された。同大学では、理学療法士としての医学的知識を基盤としつつ、マッサージガンやウォーキング指導といったウェルネス領域の実践技術を融合させたカリキュラムが提供されている。実際、同大学においてエステティックに関する資格取得課程がすでに設置されている点からは、人材育成の面から土壌ができつつあり、エステティックがセラピー産業内で今後さらに拡大していく可能性が強く示唆される。一方、B サロンの事例では、がん治療を終えた人を対象に、QOL 向上を目的としたリラクゼーションとしてのオンコロジーエステティックを提供している点が特徴的である。がんは再発リスクの高さや心理的負担が継続しやすい疾患であり、その不安軽減を目的としたケアの需要は大きい。韓国ではオンコロジーエステティックが医療や福祉と連携した「セラピー産業」の一翼を担っている。

5. まとめ

本研究では、韓国ウェルネス産業におけるエステティックおよびセラピー産業の位置づけと社会的、経済的意義を明らかにするため、韓国の事例調査を行った。その結果、韓国は美容医療との連携や国家的な制度支援により、エステティックがヘルスケア産業の一翼を担う可能性を示している点が確認された。ここでいうヘルスケア産業とは、医療、予防、健康増進、リハビリテーション、ウェルネスサービスなどを含む包括的な産業領域を指し、疾病の治療に限定されず、健康の維持、増進を目的とした多様なサービスを含む概念である。これに対し、セラピー産業はヘルスケア産業の中に含まれる領域の一つであり、身体的、心理的回復や癒しを目的としたサービス群を指し、理学療法、リハビリテーション、運動療法、森林療法、農業療法など、機能回復や健康回復により密接に関わる領域を中核として構成されている。

韓国でエステティックがセラピーとして取り入れられやすい背景には、美容医療機関の多さが関係していると推察される。2023 年時点で韓国には約 4,000 件の美容クリニックが存在し¹⁶⁾、人口 1,000 人あたりの美容医療件数も世界最多である。このような医療との近接性は、エステティックを単なる美容サービスにとどまらず、健康支援サービスの一部として位置づける基盤となっていると考えられる。本調査では、セラピー産業に国家的に取り組む韓国を対象とし、韓国治癒協会、セラピー関連人材を育成する A 大学、およびオンコロジーエステティックを提供する B サロンを訪問し、その特徴、課題、期待される効果を検討した。韓国治癒協会は多様なセラピーイベントを実施しつつ指導者の育成を行い、政府と協働して基準作成を進めるなど、セラピー産業の制度構築を牽引していた。また A 大学では、理学療法士、エステティシャン、運動指導士など、多職種がセラピーに関与できる教育体制が整備されており、セラピー産業を支える人勢育成基盤が確立されていることが確認された。

一方で、エステティックの位置づけに着目すると、韓国のセラピー産業の中で中心的役割を担っていると言い難く、理学療法や運動療法、自然療法などが中核的領域として機能していることが明らかとなった。エステティックは、オンコロジーエステティックに代表されるように、心理的安定や生活の質の向上に寄与するなど健康支援の役割をしているものの、主として美容および心理的快適性の向上を目的としたサービスとして位置づけられており、身体機能の

回復を直接目的とする他のセラピー領域と比較すると補完的な役割にとどまっていると考えられる。

以上のことから、エステティックはヘルスケア産業という広い枠組みの中では健康支援サービスとして一定の役割を担っている一方で、韓国のセラピー産業においては中核的領域ではなく、補完的領域として位置づけられていることが本研究により示された。

6. 今後の課題

本研究では、韓国の事例調査を通じて、ウェルネス産業におけるセラピー産業およびエステティックの位置づけとその意義について考察を行った。しかし、本研究は韓国治癒協会、A大学、Bサロンの訪問調査を中心とした事例研究であり、韓国のセラピー産業全体を網羅的に分析したものではない。そのため、制度の運用実態や産業規模、利用者側の評価などについては十分に検証できていないという限界がある。

今後は、韓国におけるセラピー産業およびエステティックの制度的枠組み、教育体系、市場規模などについて定量的なデータを用いた分析を行うとともに、実際の利用者や施術者への調査を通じて、その社会的、健康的効果をより多角的に検証する必要がある。また、日本との制度的、文化的差異を比較検討することで、エステティックがウェルネス産業の中で果たし得る役割と、その発展可能性をより明確にすることが今後の課題である。

謝辞：本研究のご協力頂きました韓国治癒協会とA大学、Bサロンのご関係の皆様にご心より感謝申し上げます。

【参考文献】

- 1) GLOBAL WELLNESS INSTITUTE <https://globalwellnessinstitute.org/> (2025-10-1)
- 2) 社団法人 韓国治癒協会 <https://www.ktaw.org/> (2025-11-20)
- 3) 2025 SEOUL BEAUTY TRAVEL WEEK <https://seoulbeautytravel.com/jp/> (2025-11-25)
- 4) 法制処 「美容業（肌）の概念と営業範囲」 (2025-11) 治癒観光産業育成 <https://x.gd/tDcTv> (2025-11-20)
- 5) 아름다운 나라 피부과 (ANACLI 皮膚科) <https://www.globalanaclicl.co.kr/default/> (2025-11-26)
- 6) 大韓民国 統計庁 <https://kostat.go.kr/ansk/> (2025-11-20)
- 7) 大韓民国 国家文化院 「優秀ウェルネス観光地 77 か所選定」 <https://x.gd/6tGh6> (2025-11-20)
- 8) ダニエル・マートン & 高橋結子 (2021) 『身体療法の生理学とボディワーク』 P16-21.40.41
- 9) 厚生労働省 「理学療法士及び作業療法士法」 https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=80038000 (2025-10-25)
- 10) 大韓民国 医療法 27 <https://x.gd/0w94f> (2025-10-25)
- 11) 癒し技法としてのハンドマッサージが 心身に及ぼす効果に関する研究(2023) 佐藤 郁代
- 12) メディカル・アロマセラピー(2003) 今西二郎 京都府立医科大学大学院医学研究(2024-2)
- 13) 韓国治癒協会 スリング運動士課程 <https://www.ktaw.org/lisence/slling.html> (2025-11-25)
- 14) 2019 Supportive Care in Oncology Symposium <https://dailynews.ascopubs.org/meetings/archive/2019/scos> (2025-9-2)
- 15) ONCOLOGY Training International <https://otikr.co.kr/> (2025-11-1) 16) なぜ韓国は「美容大国」となったのか <https://coffeedoctors.jp/news/1175/> (2025-11-22)